

## 生産マイスター検定試験ベーシック級 問題例

【問題】 つぎの文章の  に当てはまる適切な語句を選択肢から選びなさい。

問題のとらえ方は定量的である必要があるが、定量的とは実態を  把握することだといえる。

[選択肢]

- ア. 数値で
- イ. 本質的に
- ウ. 五官を使って
- エ. ある基準と比較して

【問題】 つぎの設問を説明するものとして、もっとも適切なものを選択肢から選びなさい。

自主チェック

[選択肢]

- ア. 作業者が、職場の改善点を自主的にチェックすること。
- イ. 作業者が、材料の数や加工した製品の数自主的にチェックすること。
- ウ. 作業者が、自工程で製品の品質を自主的にチェックすること。
- エ. 作業者が、作業にムリ・ムダ・ムラがないかを自主的にチェックすること。

【問題】 安全管理の考え方について、誤っているものを選びなさい。

[選択肢]

- ア. 安全管理は、事故や災害等を起こさないという社会的責任の面からも必要とされる。
- イ. 安全管理は、労働災害を未然に防ぐとともに、絶対的に安全な環境をつくることをめざしている。
- ウ. 安全管理には、発生してしまった災害に対して最善の対策をほどこす管理活動という側面もある。
- エ. 安全管理は、製品の品質や生産性を向上させる重要な要件といえる。

【問題】 ある工場の設備ロスを図で表すと、＜図表1＞のようになる。＜図表1＞の設備の総合効率として適切な数字を選びなさい。

＜図表1＞

A= (1日24時間)		
B= (操業ロス9時間)		操業ロス
C= (B-停止ロス2時間)		停止ロス
D= (C-速度ロス1時間)	速度ロス	
E= (D-不良ロス0.5時間)	不良ロス	

[選択肢]

- ア. 52.1%
- イ. 49.0%
- ウ. 47.9%
- エ. 38.7%

【問題】 つぎのケースを読んで、各設問に答えなさい。

株式会社A社は、主に自動車などの部品を製造するメーカーである。鹿島正春は入社2年目の社員であり、第一工場の製造部第3課に所属している。第一工場はライン生産方式をとっており、主に自動車部品を組み立てる現場である。製造部第3課には、ラインリーダーを務める山田、メンバーには鈴木、吉川、三宅がおり、いずれも鹿島の先輩である。

第3課では、各自が職場の課題である改善施策を提案する制度を設けている。これは小さな改善案を中心に、現場で作業を行う人が上司あるいは会社へ提案するものであり、今後の大きな組織改善に結びつくものには賞金や賞品が出ることになっている。しかし、最近は提案数が伸び悩んでおり、リーダーの山田はもっと積極的に改善案を提案するよう、メンバー全員に促しているところである。

この日、鹿島たち第3課はP製品の製造作業に入った。しかし、鹿島は憂鬱な気持ちだった。というのも、鹿島はP製品の製造作業で気になる点はいくつかあるからだった。

一つは、直前の工程を受け持つ三宅と製品を受け渡しする際、鹿島が2、3歩動く必要があることだった。この動きを繰り返すと疲れるし、少しずつではあるが時間にロスが出るので、鹿島は不満だった。昔からこのやり方だというが、機械の配置をずらすなどすればもっとスムーズに作業ができるような気がしていた。

もう一つは、この作業で鹿島が扱う機械には独特のくせがあることだった。先輩の鈴木から扱い方を教わってはいたが、うまく動かせない日もあった。うまく動かせなければ、当然ラインに遅れが出る。それが鹿島にはプレッシャーだった。

そしてこの日、鹿島の機械は思うように動いてくれず、ラインは停滞しがちになった。時刻は定時をオーバーし、鹿島の後の工程を受け持つ吉川は、渋い顔で鹿島を見た。

この日の作業後、山田は第3課のメンバー全員を集めてミーティングを開いた。

山田 「今日の作業はずいぶん遅れてしまいましたので、こうして集まってもらいました。どうして遅れてしまったのでしょうかね」

吉川 「こう言うてはなんですが、鹿島君のところでもたついていますね」

鹿島 「すみません。機械にくせがありまして…」

鈴木 「自分があの持ち場を担当していたのはちょっと前だけど、たしかに機械にちょっとくせがあるよね。ちゃんと自主保全はやっている？」

鹿島 「はい、大丈夫です」

山田 「では、もっと熟練するよう努めてください」

ここで鹿島は、三宅との製品受け渡し時のロスについて発言しようと思っていた。しかし、間を空けずに山田が言った。

山田 「それともう一つ気になっていたことがあるので、今言ってしまうでしょう。Q製品を作るとき、鹿島さんのネジの締め付けがきつすぎて、ちよくちよく検査で不良になっているんですよ」

鹿島 「え？ あのネジはきつく締めるようにって山田さんが…」

山田 「確かにそう言いましたが、あれではきつすぎて、その後の工程でネジの上側にひびが入ってしまうことがたまにあるんです」

鹿島 「すみません。もう少しゆるく…か。以後気をつけます」

山田 「よろしく願います。あとそうそう、前から言っている改善案ですが、今日話したこと以外に、みなさん何かないでしょうか？ くだらないと思うようなことでも、気軽に発言してくださいね」

鹿島は立て続けにミスを指摘された自分が提案を行ってよいものか迷い始め、黙ってうつむいてしまった。

設問 1. 鹿島が「機械の配置をずらすなどすればもっとスムーズに作業ができる」と気づいた後取るべき行動として、もっとも適切なものを1つ選びなさい。

[選択肢]

- ア. 以前から続いているやり方を尊重して、そのまま従うべきである。
- イ. まずは現在の作業を工夫することで効率を上げられるよう努力する。
- ウ. 気づけたことを誇りに思い、山田に提案してみる。
- エ. よりよい方法を見つけられるよう、もう一度考え直してみる。

設問 2. 自分の扱う機械にくせがあると気づいていた鹿島がとるべき対応として、もっとも適切なものを1つ選びなさい。

[選択肢]

- ア. 機械がうまく動いたときの方法を記録し、機械のくせを明確にする。
- イ. 山田を通じて保全課、設備課などの専門部署に連絡してもらおう。
- ウ. 熟練している鈴木と作業を交代してもらおうよう山田に願う。
- エ. 鈴木から教わったやり方で、自分が熟練できるまでしばらく継続してみる。

設問 3. 鹿島が行うべき自主保全について、もっとも不適切なものを1つ選びなさい。

[選択肢]

- ア. 決められた油を適時、適量、給油する。
- イ. 自主的に、気になるところを重点的に保全する。
- ウ. 簡単な部品の取り替えは自分で行う。
- エ. 少々の故障は自分で修理する。

設問 4. Q製品のネジの締め方のミスを指摘された鹿島がまず最初にとるべき行動として、もっとも不適切なものを1つ選びなさい。

[選択肢]

- ア. 適度な締め方をもう一度学び、十分な訓練を行う。
- イ. どの程度ネジを締めるべきなのか、定量的に把握するようにする。
- ウ. 初品チェックを行い、山田の確認を得る。
- エ. これまでのネジの締め方よりも、もう少しゆるく締めるようにする。

設問 5. ミーティングで改善案を求められたとき、鹿島の取るべき態度としてもっとも適切なものを1つ選びなさい。

[選択肢]

- ア. 自分の気づきは職場を良くするためのものだと考え、自信をもって発言する。
- イ. 完全な改善案が自分の中でまとまるまで、発言を控える。
- ウ. 自分に与えられた役割をこなせるようになってから発言する。
- エ. 改善案よりもまず、これまでのやり方の欠点を強調して述べる。

設問 6. 今後、第3課が不良を発生させないために取るべき行動として、もっとも不適切なものを1つ 選びなさい。

[選択肢]

- ア. QCサークル活動を行い、不良が発生する原因を追及する。
- イ. 「次工程はお客さま」という考え方をメンバー全員に徹底させる。
- ウ. メンバー全員の経験を出し合い、問題を再確認する。
- エ. 大規模な測定器を導入し、毎回全数チェックを行う。